

科学する実践者になる

ソーシャルワーカー

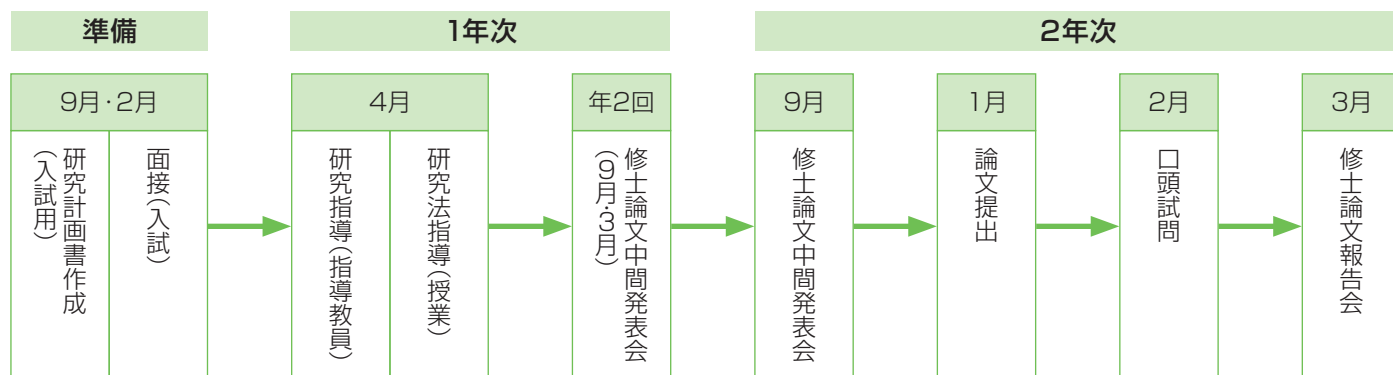
すぐれた実践者は、自らの実践をわかりやすく説明することができます。

そのため、本専攻には、ソーシャルワークの理論だけではなく、いくつかの具体的なアプローチや、自らの感性をブラッシュアップするのに役立つ授業があります。

これらを学ぶことで、現場で体験したことを理論に照らして意味づけたり、ソーシャルワークの価値や理論を自らの感性で問い返し、再構築していくことが可能になります。

また、調査研究法を学び、研究者としての基礎を身につけることもできます。

論文作成の流れ



修了要件

臨床福祉学専攻 博士前期課程の修了には下記課程修了の要件を満たし、合計30単位以上の履修が必要です。

臨床福祉学専攻

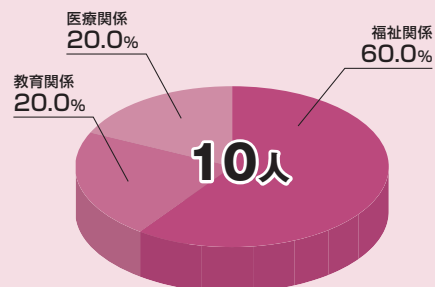
研究基礎科目群から必修6科目12単位、研究演習科目群から必修の臨床福祉学研究演習I～Ⅳ8単位の他、5科目10単位以上を選択必修とし、合計30単位以上を修得。

また、必要な指導を受けたうえで、修士論文の審査および最終試験に合格することが必要です。

就職に関する情報

大学院修了者 業種別進路決定状況

臨床福祉学専攻[博士前期課程]
(令和3年度～令和7年度全修了生就職先比率)



*SW・MSW・児童指導員・大学教員として活躍しています。

特色ある科目

地域包括ケア特論

日本の社会保障・福祉政策のグランドデザインとも言われる「地域包括ケアシステム」について本講義では、単に制度の仕組みを知るだけでなく、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供されるための「実体的な地域づくり」と「多職種連携」の本質を考えます。制度の歴史的背景や政策意図といった「理論」を学びつつ、それを実際の地域社会(コミュニティ)でどう機能させるかという「実践(マネジメント・ソーシャルワーク)」の視点を養います。また、高齢者福祉の枠にとどまらず、障害者、子ども、生活困窮などの地域共生社会の構築に向けた先進事例を分析します。

少人数制の大学院講義ならではの対話を通じて、院生それぞれの研究テーマを地域包括ケアや地域福祉の文脈から検討することができます。

担当の藤原慶二は、社会福祉協議会での実践経験や地域福祉、ソーシャルワークなどの知見を有し、理論と実践を結びつける研究に取り組んでいます。講義では、自治体や現場が直面しているリアルな課題(孤立、複合課題、担い手不足など)を取り上げ、院生自身の問題意識と結びつけながらディスカッションを深めていきます。